

植物  
防疫  
講座

## 病害編-50

# オウトウに発生する病害の生態と防除

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所 後藤 新一

### はじめに

全国のオウトウの結果樹面積は4,260 ha、収穫量は13,100 tと（農林水産省大臣官房統計部，2021）、近年、生産者の高齢化などの影響により他の果樹のほとんどの結果樹面積が減少する状況下において、ほぼ横ばいで推移している数少ない樹種の一つである。

国内でオウトウに発生する病害として日本植物病名目録（日本植物病理学会，2022）には32の病名（病原未詳，病名未提案を除く）の記載があり，病原別の内訳としては糸状菌病27，細菌病2，ウイルス病3と糸状菌による病害が大半を占めている。特に，オウトウの収穫期（6月上旬～7月中旬）は梅雨期間にあたるため，灰星病や炭疽病等の果実腐敗性病害が問題となり，これらの病害を中心に防除が行われてきた。近年は，雨除けテント被覆の普及や効果の高い薬剤の利用により，これらの病害の発生は少ない傾向にある一方で，黒斑病や幼果菌核病，樹脂細菌病等の従来の灰星病を中心とした防除体系だけでは防除が困難な病害が顕在化してきている。ここでは，現在，山形県において防除対象としている五つの主要病害について，発生生態と防除対策について解説する。

### I 灰星病 (*Monilinia fructicola*, *M. fructigena*, *M. laxa*)

発病部位と生育ステージにより，花腐れ（図-1）、幼果腐れ（図-2）、熟果腐れ（図-3）と呼ばれる。花腐れは開花後の花器部全体が淡褐色～茶褐色になり，やがて枯死する。幼果腐れは幼果に微細な黒色～褐色の斑点が生じ，後に拡大し褐色腐敗する場合と，拡大せずに斑点部がやや陥没し，かさぶた状となる場合がある。なお，後者の場合は果実腐敗しない。熟果腐れは，成熟した果実全体が茶褐色となり軟化腐敗し，病斑部には灰褐色の綿埃状の分生子塊が生じる。



図-1 灰星病による花腐れ



図-2 灰星病による幼果腐れ



図-3 灰星病による熟果腐れ

Ecology and Control of Cherry Disease. By Shinichi Goro  
(キーワード：オウトウ，病害，発生生態，防除)